

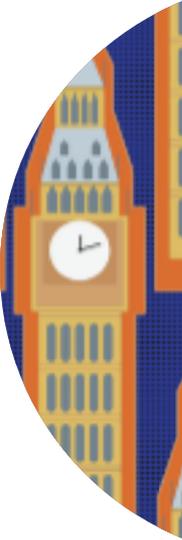


日英教育学会 公開研究会

2024年5月24日（金）

18:15~19:45

早稲田大学戸山キャンパス
31号館2階202教室
&オンライン



スコットランドにおけるCommunity
learning and developmentとしての
ユースワークの展開

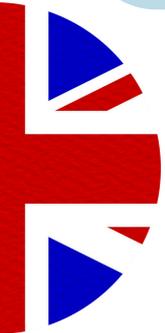
講師：阿比留久美氏（早稲田大学教授）

司会：沖 清豪（早稲田大学）

〈事前登録〉

一般の方は以下の URL または 右のQR コードから5月22日（水）
までにご登録ください。Zoom の ID等 をメールでお送りします。
参加費は無料です。会員の方の事前登録は必要ありません。

<https://forms.gle/q6S5uxXgFTad5eU58>



趣旨

日本において、イギリスにおけるコースワークというと、これまでイングランドにおけるコースワークの紹介が大半をしめ、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドのコースワークについては光が当てられることが少なかった。しかし、1990年代後半からのブレア政権下では、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドへの権限委譲をすすめ、さらに2008年の不況をきっかけとした改革により、それぞれの国におけるコースワークには大きな違いが生じている。

イングランドにおいては、1991年に5つのコースサービス関連団体が統合されてNational Youth Agency (NYA) が設立された。

一方、スコットランドでは2003年にイングランドにおけるNYAにあたるような中間支援組織としてYouthlink Scotlandが、2008年にはコースワーカーの職能団体としてのYouth Scotlandが設立された。コースワークのネットワーク組織として、前者が国の政策形成に直接関与し、後者は職能団体となりつつ、両方の組織がともにコースワーカーへの研修を実施しており、スコットランドにおけるコースワークは重層的な仕組みをもっている。

同時に、2008年に成人教育、コミュニティ・ディベロップメント、コースワークの3領域で構成されるコミュニティ・ラーニング&ディベロップメントの資格制度の承認や実践に従事するCLDスタンダード・カウンシルがつくられ、あらたな社会教育・生涯学習の資格制度がつくられている。

このように、スコットランドのコースワークは、一方で重層的なコースワークの中間支援組織が存在し、もう一方で社会教育・生涯学習の資格制度の中にコースワークが位置づけられながら、地域に根差した(community-based)コースワークを実施することで、イングランドと比較した時に現在においても相対的に実践を維持している。

本報告では、コミュニティ・ラーニング&ディベロップメントの一部としてのコースワーク、という戦略をとることにより、いかにスコットランドのコースワークが実践を維持、展開しているかを探っていく。



早稲田大学戸山キャンパスへの交通アクセスや構内案内図は大学のウェブサイトでご確認ください。

〈早稲田大学戸山キャンパス交通アクセス〉

<https://www.waseda.jp/top/access/toyama-campus>



企画：沖清豪（早稲田大学） 片山勝茂（東京大学） 佐藤千津（国際基督教大学）

日英教育学会

<https://juef.org/>